5/7 朝

都区部 物価1.9%上昇

4月 8カ月連続 7年ぶり高水準

総務省が6日発表した4月の東京都区部消費者物価指数（中旬速報値、2020年＝100）は、価格変動の大きい生鮮食品を除く総合指数が101・3で、前年同月比1・9%上昇しました。携帯電話料金が下落した効果が弱まり、上昇率は前月の0・8%から大幅拡大。2015年3月の2・2%以来、7年1カ月ぶりの高水準となりました。プラスは8カ月連続。

原油高や円安の影響に加え、前月まで指数全体を押し下げてきた昨年3月の携帯大手各社による割安プラン投入の影響が弱まり、消費者物価の大幅上昇につながりました。日銀が掲げる2%の物価上昇率目標に接近した形ですが、賃上げを伴わず、家計の負担が増加する「悪い物価上昇」が長期化する恐れもあります。

エネルギー全体は24・6%上昇しました。うち都市ガス代は27・6%、電気代は25・8%、ガソリンは14・3%、それぞれ値上がりしました。コスト高の影響で、生鮮食品を除く食料も2・3%上昇。携帯通信料の下落幅は前月の52・7%から22・5%に縮小しました。

東京都区部の指数は20日に発表される全国指数の先行指標とされ、全国の消費者物価も大幅な上昇が見込まれます。